

フライングシェード4 は、シーカヤック・リバーカヤックや自転車・オートバイ等のツーリングに、また沢登りの河原でのピバーク等の比較的風を避けれる場所で張れることを想定して設計しています。生地にはナイロンに比べて紫外線に強い軽量の30d高強カポリエステルリップストップ地に耐水圧 1000mm のPUコーティングを施したものを使用し、テンションの懸かる箇所には高強カポリエチレンライン「ダイニーマ®」で補強した独自システムであるフローティングテンションシステムを採用しています。

⚠ 注意

- 構造上天井を低くしてシェルターとして使用の場合でも、登山等での風の強い場所や横斜めから吹き込む雨に対して防衛しておりませんので、ご使用に当たっては十分に注意を頂き、絶対に登山用テントとしての使用はしないでください。
- ご使用の前に必ず下記の設営方法をよく読んでからご使用願います。

設営方法

I) タープとして使用の場合

フライングシェード4にはポールとペグは含まれておりませんので、必要に応じてご用意ください。
支柱は市販のタープ用ポール・カヤックパドル・トレッキングポールの連結・流木等を利用する事が出来ます。

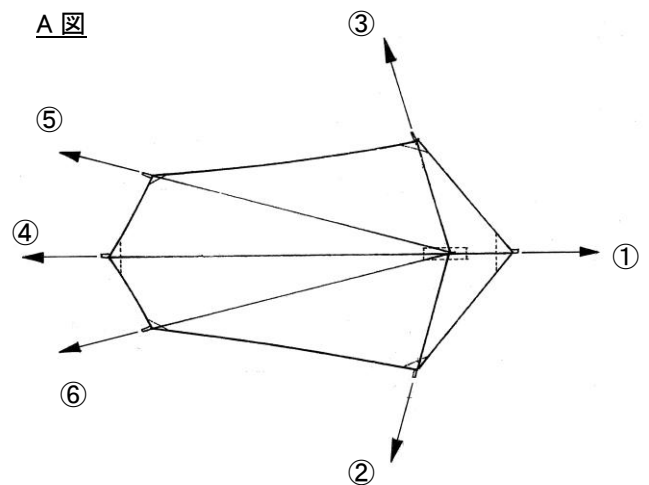
トレッキングポールなどの先端のとがった支柱の場合、プロテクターを装着してタープの内側最頂部(貫通強みに優れた補強布使用)の中心に支柱の先端部をあてがって支柱を垂直に立てたら、①②③の順番に張綱を固定しますと支柱が倒れなくなります。

その後④⑤⑥の順番で固定しますと完成です。

カヤックパドルであればブレードを補強布からずれないようにあてがって、前述と同じ要領に従ってください。

※張綱は本体生地の切り替え延長方向に伸ばしてペグ等で固定します。(A 図参照)

※支柱の高さによって張綱の長さを調整してください。(B 図参照)



B 図



II) シェルターとして使用の場合

最頂部の高さを110cmに設定したときに入り口を除く裾部は地上との隙間が無くなり、シェルターとして使用できます。

風が無ければ、高さを高くして居住性を優先させるなど自由に調整する事が出来ます。

設営方法は I) の要領と同じですが、張綱の長さは高さが低くなるにしたがって当然短くしていきます。(最高高さが110cmの時は②③④⑤⑥は本体のループに直接ペグで固定します。

支柱については I) と同じ要領ですが、カヤックなら分割式シャフトのパドル等も有効利用できて便利です。

※張綱の張る方向と長さ調整の要領についてはA図・B 図を参照してください。

保管の方法

汚れや濡れたままで保管しますと、カビが発生して生地とコーティングに悪影響を与えます。必ず、汚れや海での使用は真水で落としてから、陰干しで十分乾燥させてから保管してください。